

# かのん

1999年12月  
I s t ヴァイオリン 編集

## 指揮者：森口真司先生へのインタビュー

Q 愛響の特徴は、何だと思えますか？

A オーケストラの特徴がすぐに分かるということ自体大変なことで、極端な話、それはベルリンフィルやウィーンフィルのレベルになってしまいます。

Q 練習についてのアドバイスをお願いします。

A 練習の時から私も含めて謙虚に作曲家に向かい合って、その音楽のもつ様々な面、楽しさ、厳しさ、華やかさ、暗さ等と共に、丁寧に表現しようとすればおのずとよい面が出てくると思います。また楽譜に書いてあることを忠実に守って練習してください。

Q 指揮者になられたきっかけは何ですか？

A 京都大学のオーケストラに在籍していた時、客演指揮に山田一雄先生がいらっしゃって、その時の圧倒的な印象から指揮者にあこがれました。

Q 指揮してみたい曲、また指揮したくない曲は何ですか？

A したい曲：マーラーの交響曲

したくない曲：ブルックナーの交響曲

ブルックナーは、聴くのは大好きなのですが、指揮するとなるとそのあまりの巨大さに自分がコントロールできなくなってしまいます。今まで何回かやりましたが、まったくダメでした。今の私には無理です。

Q 余暇は、どのように過ごされますか？

A 長期的な休暇がとれば、国内旅行にでかけます。思い付いた所にどこでも行きます。（たとえば流氷を見に行こうとか、...）

また、普段は美味しいものを料理して食べます。（奥さんと共に）

Q 好きなこと・ご趣味は何ですか？

A 楽譜集めです。（器楽曲・室内楽曲・オーケストラ曲など色々）

昔の楽譜と最近の楽譜の違うところを見つけて、ほくそ笑んでいます。

お忙しい所、インタビューに快くお答えいただき、どうも有難うございました。

\*\*\*\*\*  
新入団員紹介 よろしくお願ひします。

8つの質問に答えていただきました。

- ①血液型は？ ②今の楽器を始めたのはいつ？
- ③今の楽器を奏できるようになったきっかけは？
- ④クラシック以外で好きな音楽ジャンルは何？
- ⑤好きな曲は何？
- ⑥音楽以外で好きなこと・趣味は何？
- ⑦自分の長所・短所は何だと思ふ？
- ⑧今興味をもっていることや、したいことは何？

（インタビューー：牧）

★三保 友史さん：I s t ヴァイオリン

- ①AB型 ②大学1年の時（1986年）です。
- ③中学の頃からクラシック音楽を聴いていて、自分でも演奏してみたいと思い、大学のオーケストラ部にヴァイオ



田（前事務局長）各氏のたくらみから始まったと言っても過言では有りません。それに、管の私と篠原（元トレーナー）氏等が加わりオーケストラ（愛響）発足発起人会を立ち上げたのです。

発足当時管・弦併せて47～8名だったと記憶するが、第一回の定期演奏会の曲目選考から意見の一致を見ることは有りませんでした。それは良い意味でそれぞれの自己主張を認め、それを集約してより民主的なアマチュアオーケストラと言う団長の強い理念と愛響での過去のオーケストラの苦い経験に基づいたものであったと私は思っています。

このことは愛響はアマチュアオーケストラでありプロのオーケストラでは無いと言う思想を育てることになったと私はつくづく考えています。愛響には今も昔も音大を卒業した人、大学オーケストラ出身の人、趣味で勉強してきた人等、多様な人の集合体であり決して職業演奏家の集まりではありません。そのことがみんなに認識されるまでにはかなりの時間がかかったように記憶しています。

要するに各自がそれぞれの経験によってひとつのオーケストラを創ろうとする訳だから音楽面でも、運営面でも当然ぶつかりあい悩む訳です。夜を徹してとことん話し合ったことも度々でした。当時愛響は「もめ響」とまで言われたことがありました。もめることが良しとは言わないまでも少なくともそれによってお互いの意志の疎通がはかられ、団に対する帰属意識を持つように成ったように思います。

今を思うとき、練習のことや運営のことに昔みたいにみんなが主体的に愛響に関わっているだろうか？弾いてやっている、吹いてやっていると言う気持ちを持っている人は居ないだろうか？

今年からサマコンと定期演奏会には団員拠出金を出すことになった。「私は出演料まで払って愛響の演奏会に出してもらはなくて良い」と言って退団していった人が居ると聞いた。

この人はプロのオーケストラだと思って愛響に来てたのだろうか？また、練習にはあまり出席しなくても、「私は上手だから本番には出る」等と言った考えは無いだろうか。思い上がりもしい加減にしてくれと言いたい。

私は音楽の勉強の過程はどうであれ愛響はアマチュアオーケストラであり、プロのオーケストラではないことを30周年を間近に控えもう一度考える時期に来ているとこの頃特に感じます。

ここ10年を振り返り組織も確立してアマチュアオーケストラとして順調に歩んでいる様に見えるがこれで良いのであろうか？と時々考える事がある。創立の精神を今一度確認して、アマチュアオーケストラたることの意味をみんなで問い直しても良いのではあるまいか？

## 「原点」

岩井倫郎

時は昭和29年ころ、（1954年）である。場所はきょう愛響第27回定期に開かれる、この松山市民会館が建つ前のACC（アメリカ文化センター）の前庭である。夏の宵、うす暗い建物の中では100人くらいの夕涼みがてらの聴衆を前にしてベートーベンの『田園』が粛々として進行していた。第二章の途中である。私のうしろの方、ファゴットのあたりで必死にささやく声をした。「よい！今どこやりよるんぞ！」。近くでは、「知るか！』という、これまた自爆寸前の声をした。私は吹き出したくなったが、実は私も同型の反復音形の連続のところまで今どこを進行しているか分からなくなっていたのだ。私はとなりの席でひいている松浦健君にささやいた。「健ちゃん今どこ？」彼もだまってニヤッと笑って首を振っただけだった。

高校生になったばかりのころ、私はバスケット部に入っただけ勉強はしなかったがバイオリンを少しやっていたので、松山市民管弦楽団というのがあったからやろうやという松浦健君の誘いで、毎週水曜日に練習に通った。練習所として使わせてもらっていたACCは木造平屋建ての、いわば図書館であったが、そのあまり広くもない閲覧室の机椅子を片づけて夕方から練習するのである。室の床には防腐剤のコーティングがぬってあって臭いのは閉口した。指揮をしていたのは自転車屋のおじさん、橋本さんという方だった。もうそのころ50才かと思われたが、『ここはどう振っていいか分からん』と正直に言われる人だった。二管編成など出来る管も無く、バイオリン5～6名、ビオラ2、チェロ1といったぐあいで、練習日によってはチェロバス

なしという日もあった。おもしろいのは当時、ファゴットがあったことである。しょっ中間違っていたが、私は、いい音色だなあと感心していた。今になって思うと、ファゴットとそれを吹ける人がいて、音楽好きの何人かが居たので、オケをやろうということになったのかも知れない。練習は『何小節からもう一度』のくり返しで、縦の線を合わせることに精一杯で、止まらないで楽章を通すことは、まず出来なかった。指揮者は毎度、欠けたパートにぐちをこぼしながら何小節かずつ進めて行くといった状況であった。どういうわけか、ヨハンシュトラウスの『南国のバラ』が皆さん好きだったようで、何かと言うとこの曲をやった。同じ曲を何度もやるのは、当時オケの楽譜の入手は相当困難であり、また入場料も取らなかった当楽団の財政では購入も出来なかったからであろう。

支庁ホールという市役所のホールがあって、そこでも演奏をしたと思うが、間違ったり、不揃いだったりする演奏だったにもかかわらず、高校生の私の目に写ったのは、こういった大人たちが、実に嬉々として演奏している姿である。仕事に日中精出している彼等が日暮になって三々五々嬉しそうな顔をして集まってくる。結局、楽器を合わせることが好きなのである。楽しいのである。

愛響定期も数えて27回にもなる。記念すべき第一回定期のプログラムを中田トレーナーと必死で相談したり、色々問題もあったりして今日までやって来たが、『原点』はここにある。

P. S. 愛響の紆余曲折な歴史を感じました。先生方にはよい内容の記事を書いていただきまして、厚くお礼申し上げます。

～\*～\*～投稿記事～\*～\*～

「アロマセラピーと音楽との関わり」 植田 車子

こんにちは。1stヴァイオリンの植田と申します。現在私は松山三越・高松三越友の会カルチャー教室でアロマセラピー講師をしています。今回は香りの世界と音楽との関わり深いお話をさせていただきます。

アロマセラピーとは植物から抽出した精油を用いて心身をよりよい方向へと導く芳香療法で、そのルーツは古代エジプト・ギリシャなどがあげられます。

アロマセラピーの様々な方法の一つとして香水作りがあります。これは香りの時間ごとの変化を考えながら着剤(ベース)に精油をブレンドしていくのですが、この香水創作が音楽を作曲することに似ているのです。

香水のベースとなるものは音楽における“主題”に対応し、そのブレンドのなかの精油は“音”に相当します。精油も音もコントラストを添えて調和＝ハーモニーのとれた全体を作り出すからです。19世紀のフランスの調香師たちは、香りを楽譜の中の音符(ノート)に対応させて分類していました。現在の香水作りにおいても香りの持続時間(揮発速度)の違いは「トップノート」「ミドルノート」「ベースノート」という名で表されています。香水作りは、精油の香り同志が共鳴して個々の成分を結びつけひとつになっていくものです。(オーケストラのように！)

さてアロマセラピーには必ず精油が必要で少しだけ取り扱いに注意していただければどなたでも気軽にアロマの世界にはまっていただけます。精油を選ぶ際いろいろな目安がありますが、イメージ別に代表的でとりいれやすい香りを紹介します。

すがすがしい爽快なイメージ

・・・ペパーミント、ユーカリ、ローズマリー

ゆったりとまどろむようなイメージ

・・・サンダルウッド、ラベンダー

明るい舞踏的な、幸せなイメージ

・・・オレンジ、ゼラニウム、ローズ

ロマンティックなイメージ

・・・ジャスミン、ローズ、フランキンセンス

香りをかぎわかることを「香りを聞く」といいます。香りは嗅覚、音楽は聴覚といういずれも五感から右脳に伝達され心身に何らかの影響を与えるといった共通点があるといえるのです。以上簡単ではありましたが、興味をもたれた方は、個人的に聞きに来て下さい。